



掲載した資料は、県立博物館の収蔵資料です。くわしくは、県博ホームページ「けんぱくのおすすめ」をご覧ください。  
<http://www.bunka.pref.mie.lg.jp/haku/>

# 三重の新県立博物館

新県立博物館には“おどろき”がいっぱい!!

三重の  
新県立博物館  
平成26年  
津市に開館!!

「ともに考え、活動し、成長する」

## 三重の新県立博物館

三重県環境生活部 新博物館整備推進プロジェクトチーム

TEL 059-228-2283(代表) FAX 059-229-8310  
 URL <http://www.pref.mie.lg.jp/SHINHAKU/HP/>  
 E-MAIL [shinhaku@pref.mie.jp](mailto:shinhaku@pref.mie.jp)

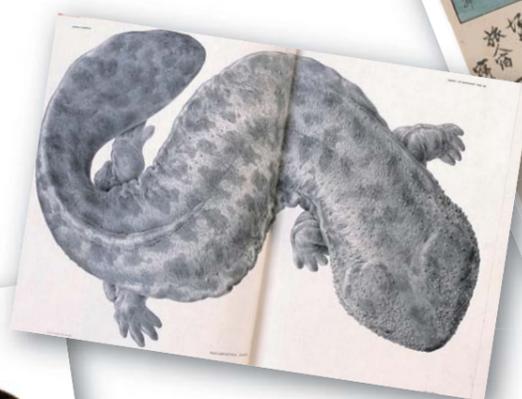
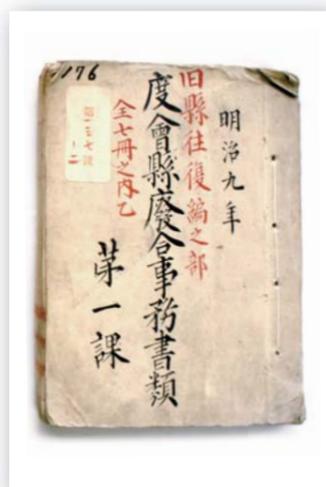
ご意見や  
お問い合わせは  
こちらまで



2012.8 改訂



# 新県立博物館には“おどろき”がいっぱい!!



三重県の「県民の日」が  
どうして4月18日なのかを  
知ってますか？

三重県の条例では、4月18日を「県民の日」として定めています。その根拠はおおよそ135年前の1876(明治9)年4月18日に旧三重県と度会県が合併して現在の三重県が成立したからです。合併の状況を記した資料を通じて、三重県の「始まり」を感じてみませんか？

新県立博物館は、公文書館機能を一体化させ、明治期県庁文書、絵図地図類11,643点の県指定有形文化財を含む歴史的公文書を保全・公開します。

資料名:『度会県廃合事務書類』  
県指定有形文化財(歴史資料)  
「三重県行政文書」から  
寸法:たて28.0cm/よこ20.0cm



■ テーマ  
 —三重が持つ多様性の力—  
 新県立博物館では、三重の特色である「多様性」と「多様性」に秘められた力について、県民・利用者みなさんとともに探求し、活用、発信するなかで、三重の地域や人に活力をもたらす、「新たな文化を創造する力」、「今をつくり、未来を切り拓く力」を育みます。

01 多様性の探究がもたらす力  
 多様な自然と歴史・文化を探求することで、一人ひとりが三重の魅力を再発見するなかで、三重への愛着と誇りを育み、地域に活力をもたらします。

02 新たな文化を創造する力  
 多様(=異なるもの)であることにより、可能性と選択の幅が広がります。また、異なるものどうしが融合・反発・刺激しあうことにより新しいものを生み出すことにつながることから、「新たな文化を創造する力」をもたらします。

03 今をつくり未来を切り拓く力  
 三重の「多様性」を、みなさんとともに探求・活用・発信することを通じて、地域の相互理解を深め互いの絆を育むとともに、地域や時代の課題解決につなげていけるような、「今をつくり、未来を切り拓く力」をもたらします。

「朝見小学校百年史」より

01 新県立博物館のテーマ  
 三重が持つ「多様性の力」

三重の「多様性」とは

日本列島のほぼ中央に位置する三重は南北に長く、水深2,000mの深海から標高1,700m近くにおよぶ山岳を含んだ多様な自然環境に囲まれ、亜寒帯から亜熱帯までの幅広い生物相を育む日本列島の縮図のような自然を有しています。その豊かで多様性に富んだ自然環境のもとで、人びとの多様なくらしや歴史が育まれました。また、三重は、古くから交通の要衝の地として栄え、東西文化の結節点、海と山との文化の出会う場所として、活発な人やモノの交流、異なる文化の接触がおこり、新たな文化、多様な文化を生み出してきました。

日本列島の縮図 生物分布の共存 (北限と南限)  
 東西交流の結節点 盛んな交流



## 02 新県立博物館の理念

# ともに考え、活動し、成長する博物館

新県立博物館では、'なぜ、今新県立博物館か'という問いかけに、博物館への社会的要請をもとにした3つの使命(①三重の資産の保全・継承、②人づくりへの貢献、③地域づくりへの貢献)を達成することで応えようとしています。

博物館活動の展開にあたっては、調査研究活動、収集保存活動、活用発信活動の3つの活動を「協創」と「連携」の2つの視点で進めます。これにより、すべての博物館活動において、県民・利用者みなさんが主体的・能動的に活動できる双方向の活動を実現します。こうした活動を通して博物館活動を質量ともに発展させ、一人ひとりの成長と地域づくりを支援していくことをめざします。

### ■ 新県立博物館の使命

#### 01 三重の自然と歴史・文化に関する資産を保全・継承し、次代へ生かす

三重の自然と歴史・文化に関する資産を、次なる100年、200年に向けて保全・継承するための主要な役割を果たし、三重のありようや履歴を明らかにすることで、地域文化の発展と新たな地域創造につなげます。

#### 02 学びと交流を通じて人づくりに貢献する

新県立博物館では、三重の未来を担う子どもたちは、世代を越えた交流の場で、楽しみながら、体験的に学びます。こうしたなかで、子どもたちは、三重への理解と愛着を深め、夢や希望あふれる未来を拓ききっかけを得ます。また、県民・利用者みなさんは、学ぶ充実感を得、知的好奇心を育み、一人ひとりの成長につなげます。

#### 03 地域への愛着と誇りを育み、地域づくりに貢献する

県民・利用者みなさんが、博物館活動の中で、地域に目を向け地域の魅力を再発見し、内外に発信することにより、地域や三重への愛着と誇りを育みます。また、一人ひとりが、各々の関心や生活課題の解決や、新たな地域づくりに取り組むきっかけを提供します。

### ■ 活動を進める2つの視点

#### 01 県民・利用者みなさんとの「協創」

「協創」とは、すべての博物館活動を県民・利用者みなさんに開き、ともに活動することにより「文化と知的探求の拠点」としての博物館をみんなでつくり上げ、発展させていくことです。

#### 02 多様な主体との「連携」

「連携」とは、県の内外で活動する多様な主体とともに博物館の活動に取り組んでいくことをいいます。「連携」の視点で活動を展開することにより、多様な主体の持つ力を得て、博物館の活動の質や量を高め、県民・利用者みなさんにとってよりよい活動やサービスを提供します。



### ■ 博物館活動

#### 01 調査研究活動

あらゆる博物館活動の根幹となる活動として、三重の魅力をもとに、収集保存活動や活用発信活動に役立てるための活動です。他の機関や団体との共同研究や、地域と連携した参画型の調査活動、県民・利用者の主体的な研究を支援する活動など、みんなで調査研究に取り組んでいきます。

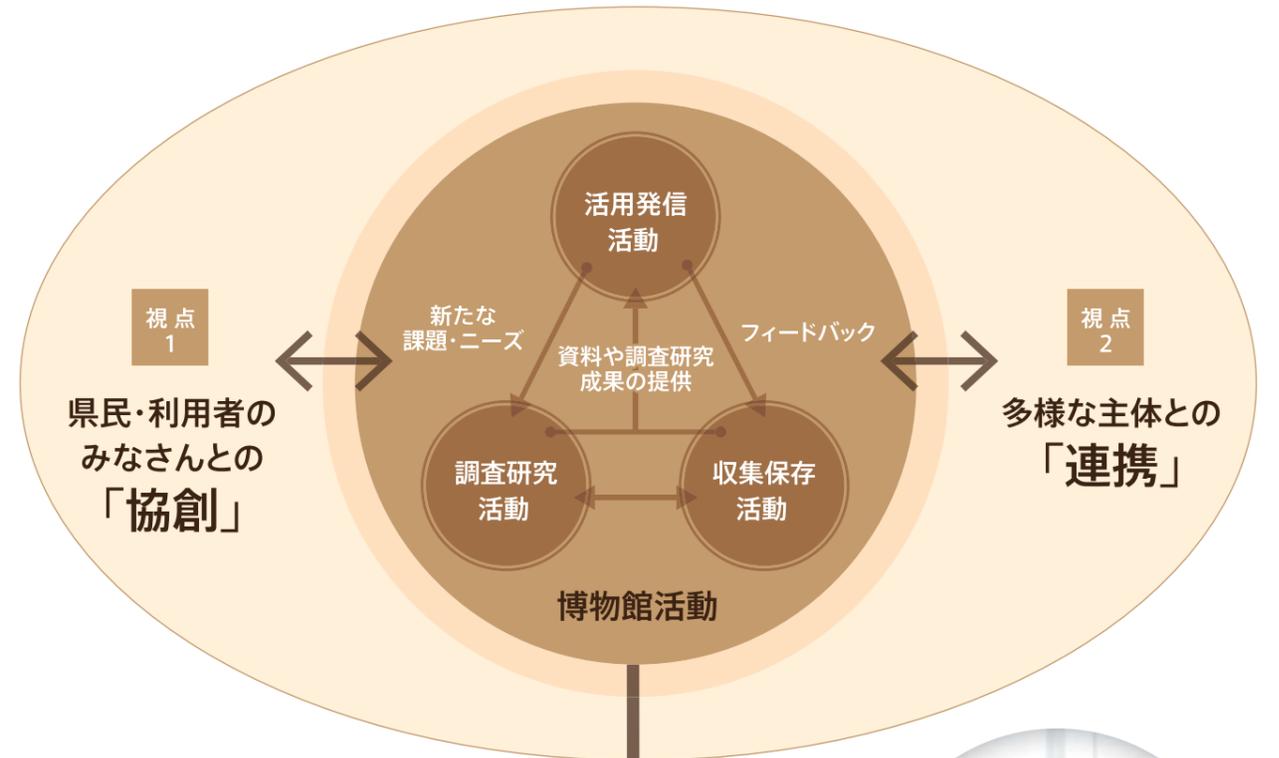
#### 02 収集保存活動

三重の自然と歴史・文化に関する資産を県民の共有財産として保全し、次代に引き継ぐための活動です。地域の多様な主体や、県民・利用者とともに収集保存活動を進めることにより、地域資産の守り手の育成や地域資産の保全活動を支援するとともに、館の調査研究活動や活用発信活動につなげます。

#### 03 活用発信活動

活用発信活動としては、三重の自然と歴史・文化に関する資産をだれもが幅広く活用し、発信できるよう、「交流創造」と「展示」の活動を展開します。「交流創造」の活動としては、三重に関するレファレンス、情報の受発信、資料の閲覧、学習プログラムなどがあります。活用発信活動にあたっては、館の一方的な発信ではなく、県民・利用者が主体的に交流や活動ができるようにすることによって、双方向的に受発信できるようにします。

### ■ 2つの視点と3つの活動の連関図



使命

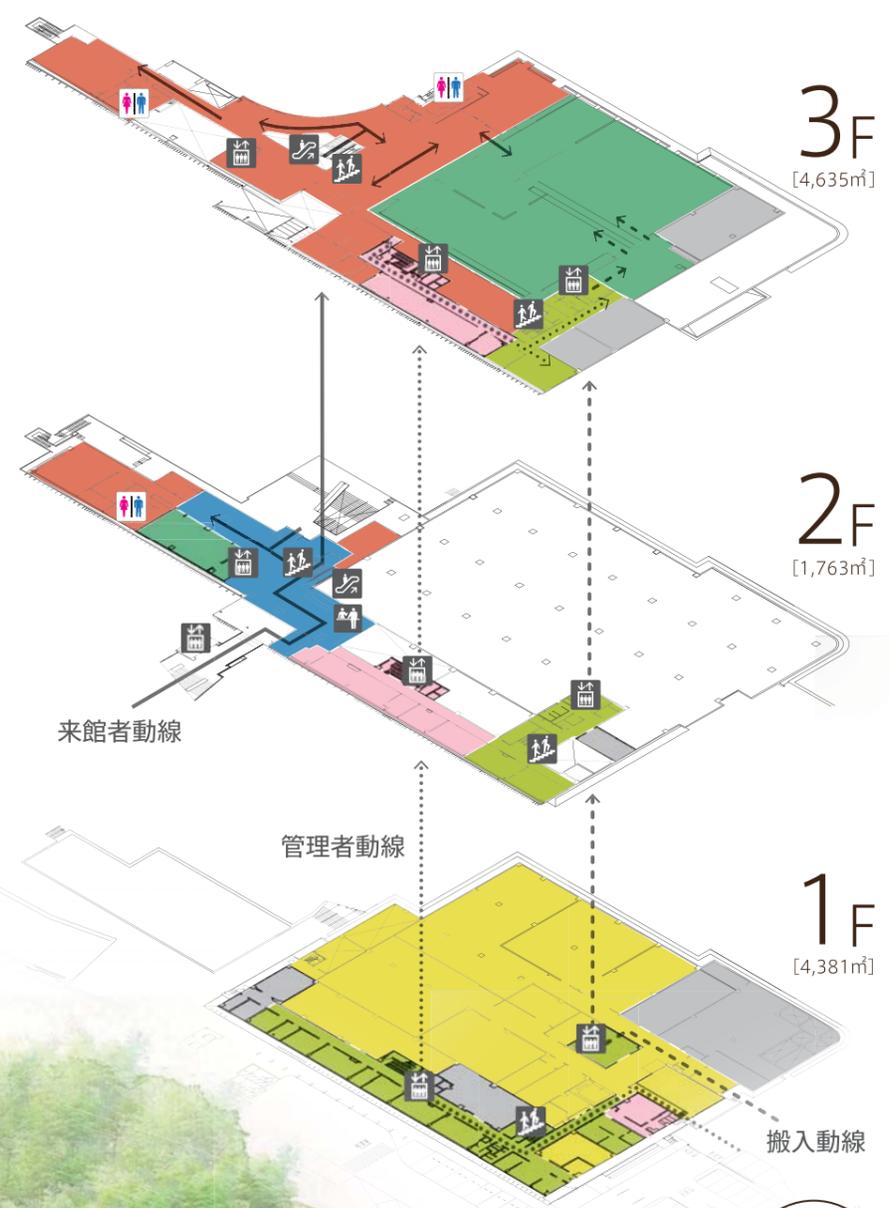
三重の資産の保全・継承  
人づくりへの貢献  
地域づくりへの貢献



# 03 新県立博物館の施設概要

## 三重の過去と未来をつなぎ 人と地域を育む 新たな「文化と知的探求の拠点」

新県立博物館では、県民・利用者みなさんとともに三重の自然と歴史・文化を探求し、守り伝え、生かしていくための博物館活動を展開します。未来につながる新たな知を創出・発信することをめざしており、このためにふさわしい施設となるようにしています。建物は、3階建てで、収蔵エリアを1・2階に、エントランスエリアを2階に、活用発信活動を展開する交流創造エリアと展示エリアを2・3階に配置しています。みなさんに気軽にご利用いただけるようわかりやすい施設構成とともに、三重らしさを表した落ち着いたある外観デザインとしています。



### ■ 施設構成

#### ■ エントランスエリア [520m²]

エントランスエリアは、メインエントランス(出入口)のほか、館東側のミュージアムフィールド側からの出入口も設置し、誰もが気軽に立ち寄れる空間とし、三重の魅力と楽しさにあふれた飲食・休憩スペースやミュージアムショップを設けます。

#### ■ 交流創造エリア [2,073m²]

交流創造エリアは、このエリアの中心となる学習交流スペースと、こども体験展示室、資料閲覧室、実験実習室などの諸室がうまく機能連携して、県民・利用者みなさんの多様な興味や関心、目的に応える活動を展開する、明るく開放的な空間です。

#### ■ 展示エリア [2,158m²]

展示エリアは、三重の多様で豊かな自然と歴史・文化の魅力を紹介する「基本展示」と複数のテーマによる大小さまざまな展示の組み合わせで展開する「テーマ展示」の2つの展示を互いに関連づけながら展開することで、三重の特色である「多様性」を探求し、県内外に発信します。

#### ■ 調査研究エリア [1,294m²]

調査研究エリアには、博物館活動に欠くことのできない資料の修復、保存、調査・分析のために必要な機械・器具を備え、必要な作業ができる諸室があります。

#### ■ 収蔵エリア [2,743m²]

収蔵エリアは、貴重な資料を安全に保存するため、外気の影響を受けにくい場所に設置し、複数の収蔵庫により、資料の種類、特性に合わせて適切な保存環境となるようにします。

#### ■ 管理エリア・機械エリア [1,991m²]

管理エリア及び機械エリアには、博物館の運営と建物の維持管理を適切に行っていくための諸室があります。

合計面積  
10,779m²



**新県立博物館建築概要**

場所	三重県総合文化センター隣 津市上浜町6丁目・一身田上津部田地内 (津駅西口からバス約5分)
敷地面積	37,793m²
構造・規模	鉄骨鉄筋コンクリート造(一部を除く) 3階建て
延べ面積	10,779m²(外部通路等を除く)